

2024年3月号

イエス様の教えを宣べ伝えよう。互いに仕え合う「愛と感謝」の祈りの共同体



復活教会便り

電話 082-227-1553

献金用口座 (ゆうちょ銀行) 日本聖公会広島復活教会 店名五一八 (518) 普通 1377700

イースターを迎えるにあたって

3月も中旬になり、イースターが近づいてきました。皆さんは、大斎節をいかがお過ごしでしょうか。今年の大斎節第4主日の礼拝は、「ピンク(バラ色)」の祭服をつけさせていただきました。当日、礼拝に出席された方は、珍しい祭色に驚かれた方もおられるかもしれません。

大斎節というと、「悔い改め」や「節制」が強調される期節です。かつて、ある聖職の方が、「大斎節にタバコをやめて、そのままタバコをやめた」という話を聞いたことがあります。イエスさまが荒野で40日間過ごし、様々な誘惑に打ち勝ったように、私たちも大斎の期間に、自分自身を律することが求められているように思います。一方で、「節制をする」ことが目的ではないとことを心に留めておきたいと思います。大斎節は「イースターへの備えの期節」だからです。



棕櫚の十字架作り中！

ピンクの祭服をつける大斎節第4主日は、「バラの主日」や「喜びの主日」と呼ばれてきました。それは、「イースター」は私たちにとって、一番の「喜びの日」だからです。イエスさまの復活によってもたらされたものは、「永遠の命」であり、「よみがえりの約束」でした。それは同時に、「神さまと私たちとの和解の出来事」であり、「関係性の回復」でもありました。またそれが、私たちの努力や鍛錬、節制によってではなく、イエスさまの復活という出来事を通して、実現したということも見落とせません。私たちと共にいてくださるイエスさまが、破れた関係性を直して下さった事を「喜び」「感謝する」のがイースターの礼拝です。それが、すぐそこまで来ている事を思い起こすため、大斎節第4主日では「バラ色」が用いられるのです。大斎節は「喜び」を待つ期節であることを、もう一度思い起こしたいと思います。そして、「喜びの時」であるイースターを皆さんと迎えるための準備を進めていきたいと思います。3月31日(日)の復活日は、是非教会にお集まりください。

感謝の祭り

2月19日(月)～23日(金)に韓国のソウルで開催されたIALC(聖公会国際礼拝協議会)の総会に出席してきました。17の管区から42名の参加者が与えられた会議でした。今回は、1995年の「聖公会の聖餐の刷新(通称:ダブリンレポート)」が発表されて約30年が経つことから、改めて「聖餐式」について協議することになりました。

1995年というと、日本では阪神淡路大震災やオウム真理教による地下鉄サリン事件があった年です。

その時、私はまだ小学校の低学年でした。その後、30年を振り返ってみると、時代の移り変わりを感じます。1998年には長野オリンピック、2002年には日韓ワールドカップ、2年前の東京オリンピックなど国際的な祭典が開催されました。また経済の面で言うと、95年には3%だった消費税が、現在では10%になっています。そのように、日本の状況を考えても30年の間に様々な変化があったことが分かります。今回のIALCでは、大きく変化していく世界において、聖公会の聖餐式の持つ意味を神学的、文化的、宣教的な文脈の中で考えることになりました。私が参加した分科会でも、30年間の「社会」の変化に伴って、世界中の教会で「教会」の状況も変わりつつあることが分かりました。



しかしながら、改めて確認されたことの一つは、本質的なことでした。それは、聖餐式が「感謝の祭儀」であるということです。神さまがこの世界、そして私たちを造ってくださったこと、イエスさまが私たちの和解の使者としてこの世に来られこと、聖霊の導きによって私たちが今も生かされていること。そのように、父と子と聖霊なる神さまの働きに「感謝」するため、教会に集められ、聖餐式を続けているということでした。

「教会はこうでなければいけない」「昔はこうだった」時折聞く言葉です。教会をよくしていくためには、時には必要な議論もあると思います。しかし、その思いの前提に「神さまへの感謝」を忘れないでいたいと思います。体のどこかに不調があったり、家族の介護があったり、人間関係で傷ついたり、30年前には想像もしなかった状況が広がっているかもしれません。それでも、今日もまた生かされていること、神さまが出

会わせてくださった人々に救われたこと、教会に集められたこと、そのことに気づけた時、聖餐式がユウカリスト(ギリシャ語で感謝という意味)と言われていることが身にしみてくるように思います。皆さんと、神さまへの「感謝」の思いを持ちながら、日々の礼拝や交わりの時を大切にできればと思います。

司祭 バルナバ 永野拓也

能登半島地震の被災地への募金を開始します

1月1日に発生した能登半島地震の被災者のために、復活教会では毎主日お祈りを献げてきました。この度、3月17日(日)～6月23日(日)までの期間を設けて、被災地のための募金を募ることといたしました。礼拝堂入り口に募金箱を設置いたしますので、可能な方はお献げいただければと思います。いただいた募金は、京都教区の被災地支援の活動の為に全額お献げする予定です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

今後の予定

- 3月24日(日) 礼拝後 大掃除
- 3月25日(月)9時00分～9時30分
復活前月曜日 聖餐式
- 3月26日(火)9時00分～9時30分
復活前火曜日 聖餐式
- 3月27日(水)7時00分～7時30分
復活前水曜日 聖餐式
- 3月28日(木)16時00分～16時45分
復活前木曜日(洗足式) 聖餐式
- 3月29日(金)12時00分～15時00分
受苦日 礼拝
- 3月30日(土)9時00分～9時30分
復活前土曜日 聖餐式前半
11時00分～
イースターエッグ作り
13時00分～16時00分
イースター礼拝・祝会準備
17時00分～17時45分
復活日前夕の礼拝(光の礼拝)